

題材の目標

- (1) 形や材料などの性質や、仏像の造形的な特徴などを基に、歴史的な背景をふまえて印象を捉えることを理解している。
- (2) 仏像の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と造形的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、味方や感じ方を深めている。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に仏像のよさや美しさなどについて感じ取るなど鑑賞の学習に取り組もうとしている。

標準的な展開例

【準備等】 参考資料、ワークシート、タブレット端末、筆記用具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 全体のイメージを捉える。</p> <p>★仏像の細部や全体から魅力について考えよう。</p> <p>○ 仏像の魅力はどこから感じられるのかを考える。</p> <p>・「薬師三尊像」</p> <p>○ 仏像を比較して見て、造形的な特徴を捉える。</p> <p>・「金剛力士像」と「十二神将立像 伐折羅像」</p> <p>・「如意輪観音菩薩坐像」と「弥勒菩薩半跏思惟像」</p> <p>○ 日本文化の時代的なおおまかな流れや表現の特質を見ていき、日本美術の概括的な変遷を捉えることを通して、各時代における人々の感じ方や考え方、生き方や願いなどを感じ取る。</p>	<p>・ 仏像の顔や手の表情から全体のイメージを捉えさせる。</p> <p>・ 「学びのはじめ」を活用し、仏像の造形に着目させる。</p> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術を通した文化の継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 顔や手の表情がもたらす効果や、形や材料、質感、空間などに視点を当て自己との対話を重ねながら造形的なよさや美しさなどを感じ取る。</p> <p>【評】顔や手の表情がもたらす効果や、形や材料、質感、空間などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 飛鳥時代や奈良時代から時代を経て次第に変容していき、平安時代や鎌倉時代に日本的な美術文化を誕生させてきたという独自の流れと関連付けて考えさせる。</p> <p>・ 仏像の表現の特質を一層明確になるよう文化的な視点で捉えさせる。</p> <p>【評】日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、美術を通した美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深める活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本題材は、仏像の造形は、時代や作者によって表現の特徴が異なり、様々な祈りに応える姿を現すために仏師が試行錯誤し表現を磨いてきたものである。空間の効果、量感や動勢などを捉えることが重要な視点である。仏像の祈りの造形は遠い過去から現代に続く美術の長い歴史の中で、先人の努力や知恵が受け継がれて発展していく中でつくられたものである。先人の感性や美意識を生かし、新たな感じ方や感性を育てることにつなげる。探究活動や校外研修などを通して実感を伴いながら理解できるようにする。